

介護部会 西ブロック会議 報告書

実施日 令和4年12月6日(火) 14:00~15:00

会議実施会場 WEB会議

参加人数 5施設 5名 参加(ライフモア保土ヶ谷 書面参加)
ハートケア横浜、リハパーク舞岡
ソフィア横浜、ハートケア横浜小雀、
千の星・よこはま

議事項目 テーマ:看取りについて

看取りについて(今回参加の6施設では看取りを実施している)

A施設: 令和3年4月より看護師を中心に行っている。介護は対象者様の状態観察や苦痛緩和、褥瘡予防の為に体位交換や清潔保持に努め、看取り後はエンゼルケアを行っている。マニュアルで対応のながれを確認しながら行っている。定期的に研修を行っていく予定。

B施設: 看取りについて同意書を読んでいただきサインを頂く。基本的には普通の生活(食事、入浴、離床、臥床等)をして頂く。

C施設: 看取り開始前に看護、介護など多職種で話し合い、方針を決定する。「その人らしい最後を迎えて頂く」をモットーにその方が好きだった写真、音楽、などをご家族に準備して頂き、居室に飾ったり流したりしている。ご家族との連携も大事にしている。面会時間については24時間一緒にいられるように居室内にソファなども準備している。利用者様への対応としてはこまめな巡視、褥瘡予防のための体位交換などを行っている。衣類についても重要と考え、私服で最期を迎えられるようご家族様とも協力している。

D施設: 看護師、施設長よりご家族へ説明がされ、納得頂いてから看取りを開始する。看護、介護が協力し「その方らしい最後」を迎えられるようにしている。ご家族にアンケートを答えて頂き、趣味や好きなものの情報を頂きケアに活かしている。利用者様へは苦痛の緩和、清潔保持、褥瘡に注意しケアを行っている。最後の服についてはご家族様に用意して頂いている。ご本人の意思を聞き出す事は難しいが出来る限り、その方らしい最後を迎えられるよう努めている。マニュアルを用意しているが勉強会も行っている。

E施設: 看取りの同意サインを頂く前に多職種で話し合い、ご家族様への説明後再度話し合い、利用者様の不安を少しでも和らげることが出来るよう努めている。苦痛緩和をメインに介入し、ご本人様・ご家族様の希望に沿ったケアを行っている。

面会制限はなく、好きな食べ物を持って来て頂いたりしている。

F施設: 他の利用者様と変わらない生活を心掛けている。面会については15分までだが24時間可能としている。若い時の写真や好きな音楽をご家族様に持って来て頂き使用している。好きな食べ物も持って来て頂き召し上がって頂く事もあるが、好きな物を食べに職員が付き添い外出した事も過去にあった。

質疑応答

○マニュアルの内容や出来た経緯は？

A施設: 看護師長を中心に作成し看取りの前期・中期・後期・死亡直前期に分け、対応している。看取り対応を開始するにあたり、現場が混乱しないようマニュアルが作成された。亡くなられた後の対応についてはマニュアルとは別にプリントを用意している。

○看取りについての研修とはどんな内容なのか？誰が行っているのか？

A施設: グリーフケアやエンゼルケアなど内容は毎年変えている。全職種参加している看取り委員会が内容を決め開催している。今年は実際にあった事例について考える研修を行った。

○看取りを行った後の振り返りはどのように行っているか？

A施設: 振り返りは行っていない。現場からの意見は上がっているので改善していきたい。

B施設: 委員会では報告のみとなっているが、亡くなった後のカンファレンスは「しのぶ会」としご家族にも出席頂き、意見なども聞き次に活かそうとしている。

C施設: 亡くなられた後の振り返りカンファレンスでは事務職を含む多職種で話し合い、意見を交換している。そこで出た意見を看取り委員会で話し合い、改善出来るようにしている。

コロナについて

A施設: 感染なく落ち着いている。5回目のワクチン接種は12月中旬より開始予定。

B施設: 5月6日入所者様2名の熱発から始まり、その後職員・利用者様から続々と陽性者が出て、デイサービスも1か月中止となった。職員は抗原検査、手洗い、アルコール消毒、ガウンテクニックなど感染対策の徹底、PCR検査を定期的実施。職員出勤時は1階にて防護服着用後、各フロアで勤務。レッドゾーンとグリーンゾーンに分け対応(認知症の利用者様がいる為、厳しい

状況であった)・陽性者(食事等居室での生活)・陰性者(食事等フロアでの生活) 全員入浴は中止とし週2回の清拭を行った。

専門的な知識のない職員の対策には限界があった。保健所に質問するも具体的なアドバイスは得られず。DMATの依頼するも派遣されなかった。同じ事が起こらないよう施設の構造にあった対策を検討中。介護と感染対策の両立は難しいが二度と同じ思いをしないよう職員が意識を高めていきたい。最終は6月26日、以降熱発者なし。12月6日より職員のコロナワクチン4回目か5回目を開始。利用者様のワクチン接種は3回目か4回目で終了。

C施設: 全フロアで以前コロナ感染者が出た。手洗い・手指消毒を行い、食席と居室を一緒にし感染が広がらないようにしている。認知症がある方はマスクの利用が難しい事もある。

職員は毎日検温を実施し決められた温度以上は出勤しない。喉の痛みなどがあつた時も施設に連絡し休みにしている。また、職員の家族に熱やのどの痛みがあつた場合も休んでもらうようにしている。

D施設: 9～10月にコロナが発生。認知棟では利用者様にマスクなどを着用して頂くのが難しく、クラスターとなってしまった。発生時は居室での対応、感染症グッズ対応とした。現在は落ち着いている。

対策として利用者様の食席にはつい立てを設置・マスクを着用して頂き毎日15時に交換・手指消毒・検温を行っている。職員は出勤時と退勤時に検温し、家族に熱発の方がいれば休んでもらっている。

E施設: 7月にクラスター発生。感染対策について職員の認識乏しく、マニュアルの配布・説明を行った。ゾーニングを行い対応。職員は熱があれば休み。

利用者様で熱があつた時には抗原検査をおこなっている。感染グッズの利用方法についてもマニュアル作成中。面会は制限を設け行っている。

F施設: 9月初めに認知棟で22名、一般棟で2名のコロナ陽性者が発生。11月初めにも一般棟で陽性者が出た。ゾーニングを行い対応しているがなかなかうまくいかず、対策をしていかなとイケない。

○感染対策としてアクリル板越しでの面会としているが、アクリル板を取り除き面会してしまう家族がいる時、どのように対応しているか？

A施設: ご家族には事前に検温をして頂き、1回10分、マスク着用での直接面会としている。

B施設: 予約制、1階面会コーナーでアクリル板なしの面会を行っている。面会にはワクチン接種などの条件がある。コロナ陽性者が出た時にはオンライン面会としている。利用者様に近づきすぎご家族様には適宜声をかけ

している。

C施設:各フロア予約制で1日4組まで1組2名まで。15分としている。アクリル板越し面会としているが、アクリル板を越えて話しかけたり、写真を撮っているご家族もいるため、都度声掛けしている。

D施設:予約制、1階面会コーナーで2m程離れた状態で直接面会としている。1回10分2名までとし問診票への記入をお願いしている。中学生以下は窓越し面会とし、耳の遠い方には内線ピッチを利用しご家族と会話して頂いている。

○レッドゾーンの職員の振り分けはどのようにしているか？

A施設:その日いる職員でなんとかまわしていた。

B施設:その日のコロナ担当を決め、コロナ担当の職員はその他の利用者様とは関わらない。夜勤についても2名体制の為、1名を担当とした。

C施設:ユニット型の為ユニットの職員が担当する。ユニットで1つとしており行き来しないようにしている。夜勤については罹患した方の対応はユニット職員、フリーが罹患者以外を担当することとした。

D施設:基本的にはレッドゾーン担当を1名決め対応していた。

○看取り後、亡くなられた方の私物をご家族から寄付頂く事はありますか？

全施設、衣類などの寄付は受け取り、施設で活用させて頂いている。衣類以外にも靴やラジオ、おむつなどの寄付を受け取っている施設もある。

今回にて今年度のブロック会議は終了。